

Genuine Uncertainty and International Entrepreneurship: Organizing Early Internationalizing Firms to Exploit International Opportunities

H29海人8

派遣先 AIB 2017 Annual Meeting (アラブ首長国連邦・ドバイ)

期 間 平成29年7月2日～平成29年7月5日 (4日間)

申請者 早稲田大学 商学研究科 後期博士課程2年 加 納 拡 和

海外における研究活動状況

研究目的

近年、設立後まもなく海外市場に積極的に進出する「早期国際化企業」と呼ばれる新興の企業形態が観察されている。本研究の目的は、早期国際化企業がいかなる海外市場進出形態（海外直接投資、輸出、ライセンス等）を通じて国境を越えた価値の創出・獲得を実現しているのかを理論的に解明することにある。

海外における研究活動報告

筆者は2017年7月2日から5日にかけてアラブ首長国連邦・ドバイで開催されたAcademy of International Business (以下、AIB) の年次大会に参加し、研究の成果を報告した。

AIBは国際経営の研究領域において世界最大かつ最も権威のある国際学会といわれている。本年の年次大会にも約1,000名程度の研究者が世界中の国や地域から参加した。本大会においては、米国におけるトランプ大統領の就任、英国のブリゲジット、ポピュリズムの台頭等の出来事があったため、今後の経済活動のグローバル化の展望に関するパネルディスカッションが参加者の関心を集めていた。議論を要約すると以下の通りである。上記の出来事

を招いた要因としては、経済活動のグローバル化の恩恵を享受できない人々、先進国における懐古主義的な心理的作用が挙げられる。確かに、それらはグローバル化の利点に焦点を当ててきた国際経営の研究領域においては十分に考慮されてこなかった。それゆえ、グローバル化に抵抗する人々の心理等については新たな研究対象になりえるかもしれない。しかし、グローバル化の利点を鑑みれば、速度に変化こそあれ、今後もグローバル化は進展するだろうという点でほとんどの報告者は見解の一致が見られた。

本年次大会は研究テーマ毎に11のセッションに分かれて研究報告が行われた。それゆえ、上記のような興味深い議論を聞くことが出来た。しかし、筆者が今回のAIB年次大会にて参加した主な目的は以下の2点でありとその成果は以下の通りである。

まず一つめの目的は、海外の先端的な研究を行っている研究者からフィードバックを得ることである。本研究の分析対象である早期国際化企業は日本よりも北欧を中心に海外において頻繁に観察される企業形態であり、海外の研究者達が先端的な研究を推し進めている。本研究は早期国際化企業の価値創出・獲得のメカニズムを理論的に解明することを目的と位

置付けているが、渉猟すべき文献、また早期国際化企業の実例について詳細なフィードバックを得ることができた。また、研究内容のみならず、投稿に適した学術誌についても有益な情報を得ることができた。

2つめの目的は、本研究の共同研究者を見つけることにある。国際的な学術誌に論文を掲載させるためには緻密な英語の表現や厳格な査読に対する適切な対応が求められる。それゆえ、本研究を発展させるためには、経験豊富な「メンター」の役割を担ってくれる共同研究者が不可欠であると考えている。筆者は本研究に関連する領域で実績のあるスウェーデンの研究者に事前にメールをした。本研究については興味を示してもらえたものの、残念ながら

本年次大会には参加しないとのことで別の学会で打ち合わせを行うことになった。他方で、海外のとのネットワークを広げることが出来た。

最後に、貴財団の助成を賜り、上記の貴重な機会を得ることが出来た。貴財団に厚く御礼申し上げますとともに、本学会での研究報告を通じて得られた経験、知見を基にさらなる研究活動に邁進したい。

**この派遣の研究成果等を発表した
著書、論文、報告書の書名・講演題目**

Hirokazu, K. "Genuine Uncertainty and International Entrepreneurship: Organizing Early Internationalizing Firms to Exploit International Opportunities," *Proceedings of the 59th Annual Meeting of the Academy of International Business*